日本産倍足類及び蜈足類の分類学的研究 12. オビヤスデ属の 3 新種

三 好 保 徳（愛媛松山北高等学校）

昭和 29 年 9 月 21 日 受領

1. *Epanerchodus tubakisanus* sp. nov. (イシイオビヤスデ) Abb. 1.

雄体長約 11mm, 幅 1.4mm, 雌体長約 13mm, 幅 1.8mm. 体色共に汚れた赤褐又は暗褐色。頭部大形。頬部膨出し頭頂に毛多し。触角は甚だ短かく第 7, 第 6, 第 5 節の長さと幅との比はそれぞれ 5:4, 10:7, 19:11。第 7 節にある Sinneskuppel は著しく発達している (Abb. 1, A)。このことは Sinneskuppel が洞窟性のものにのみ発達するという Verhoeff 氏の説が正しくないことを示す実例であるように思う。頸板は半月形で頭部よりはるかに幅せまく瘤隆起は不明瞭で 3 剛毛列あり。第 2 背板は頸板より幅著しく広く頭幅に近い，瘤隆起はやゝ明らかで第 3 以後第 19 背板まで瘤隆起明瞭。側庇は長さが幅より少し大，円形隆起と外縁に近い指状隆起とは目立つ。臭孔は側縁に近く開口。第 6 或は第 7 側庇から Hinterzipfel が発達しているがしかし皆微小である。胸板には短い毛が密生し十字溝あり。雄の体前方部歩肢は肥大しているが Kugelborste は極めて小形且前腿節の背面は著しく円形に膨出している。雄第 2 歩肢基節には赤紫色精円紋でかこまれ，やゝ隆起している Genitalöffnung がある。第 19 Hinterzipfel は極小 (Abb. 1, B)。

生殖肢の基節は大形。前腿節には短い剛毛多し。腿節基部外側に数本の長剛毛あり。Endomerit は大形鈎爪状，その中央部に小形枝ある場合多し。Clivus は小形。脛跗節は彎曲し中央外側に板状で先端彎曲して指状に尖る枝あり。又中央内側にも小突起あり。さらに脛跗節は先端近くでも小枝を分つ (Abb. 1, C–H)。この生殖肢の形，及び触角の形態は本種を同属の他種から明らかに区別する特徴となる。Holotype は体長
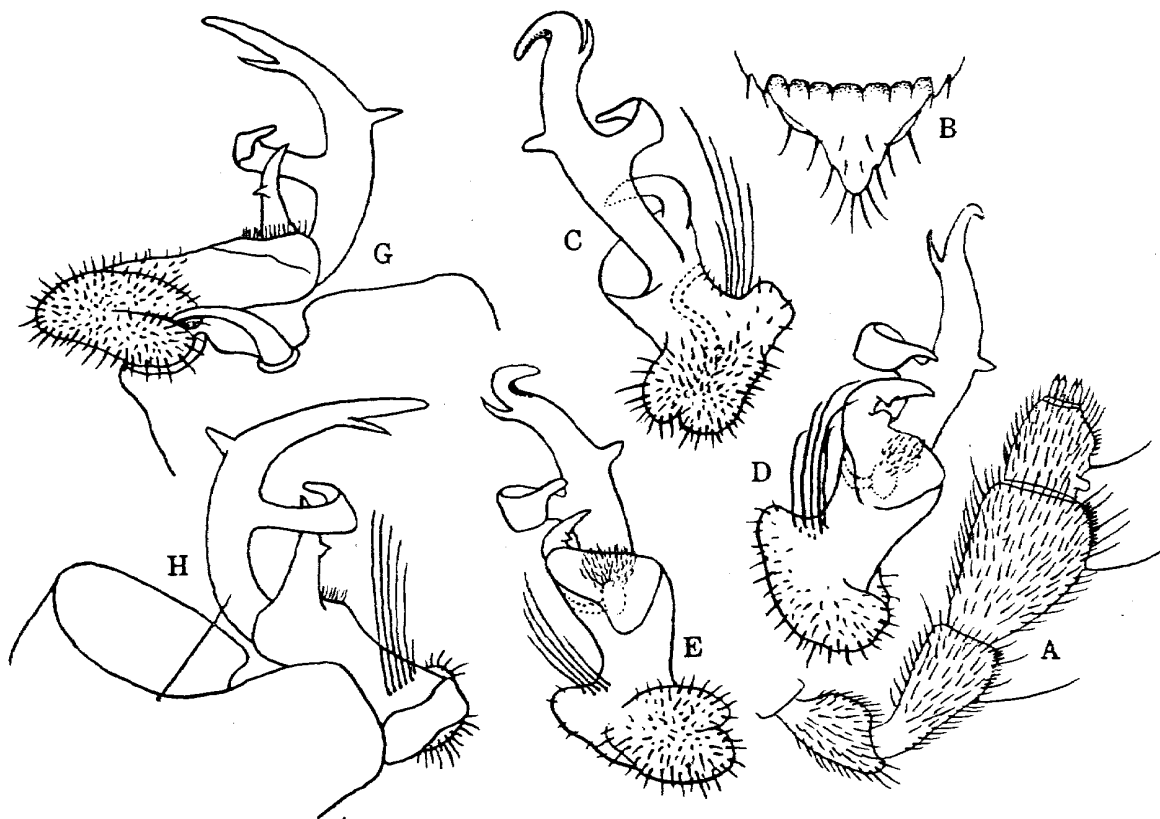
Abb. 1. *Epanerchodus tubakisanus* sp. nov. ♂ A: Antenne. B: Körperhinterende. C–H: Gonopoden.

11mm の雄。Allotype は体長 13mm の雌。他に同時に雄 11 疋，雌 15 疋を採集。産地は愛媛県温泉郡石井村にある伊予豆比古命神社（俗に椿さんという）の社叢。1953 年 4 月 12 日三好採集。

2. *Epanerchodus yosiianus* sp. nov.（ヨシイオビヤスデ）Abb. 2.

雄体長約 26mm，体幅 3.8mm。雌体長約 30mm，体幅 3.9mm。浅い洞窟からとれたもので真洞窟性の種ではなく体色は黄褐又は汚褐色。頭部には短毛粗に生じ触角は洞窟型に近い。頸板は頭幅とその幅略々等しい。瘤隆起なくその位置に微小顆粒ありてそれに剛毛あり。両側には 1 つの微鋸歯あり。第 2 背板は短形，頸板より少し幅広く瘤隆起なし。側庇は大いに発達し，側縁に鋸歯と Stäbchen あり。第 3 第 4 背板も幅広く，体の前方部の側庇はやゝ背方へ反つている。後方の側庇になると水平に突出し鋸歯も微小で Stäbchen もない。第 19 Hinterzipfel は Telson の中央へは達しない。瘤隆起及び Hinterzipfel は第 7 又は第 8 背板に至つてやゝ認められるようになるが著しくはない。殊に各々第 3 列の瘤隆起が不明瞭である。臭孔は側縁から離れて背面に開く。側庇の長さと幅は略々等しく側庇は広い。この広い側庇背面の大部分を円形隆起がしめていて目立つ。胸板は十字溝あり剛毛密生。

生殖肢の基節著大，角状突起はむしろ小形。腿節部の後面は広く溝状に凹む。Endomerit は大形角状で中央部に 1 枝あり。脛跗節は細長く単純に曲る。副棘も大いに発達していて形単純。後腿節部は強力に先へ向つて突出している。外棘あり。近似の *E. sancutus* に比べると体大形，側庇広く，第 19 Hinterzipfel が大，歩肢が華奢で細長（Abb. 2, d）。Endomerit 大形。等の点で全く異なる。Holotype は体長 26mm の雄。産地は京都府大江山の鬼の窟。1953 年 8 月 5 日京都大学吉井良三先生によつて採集されたものでこゝに学名をさゝげて感謝の意をあらわす次第である。
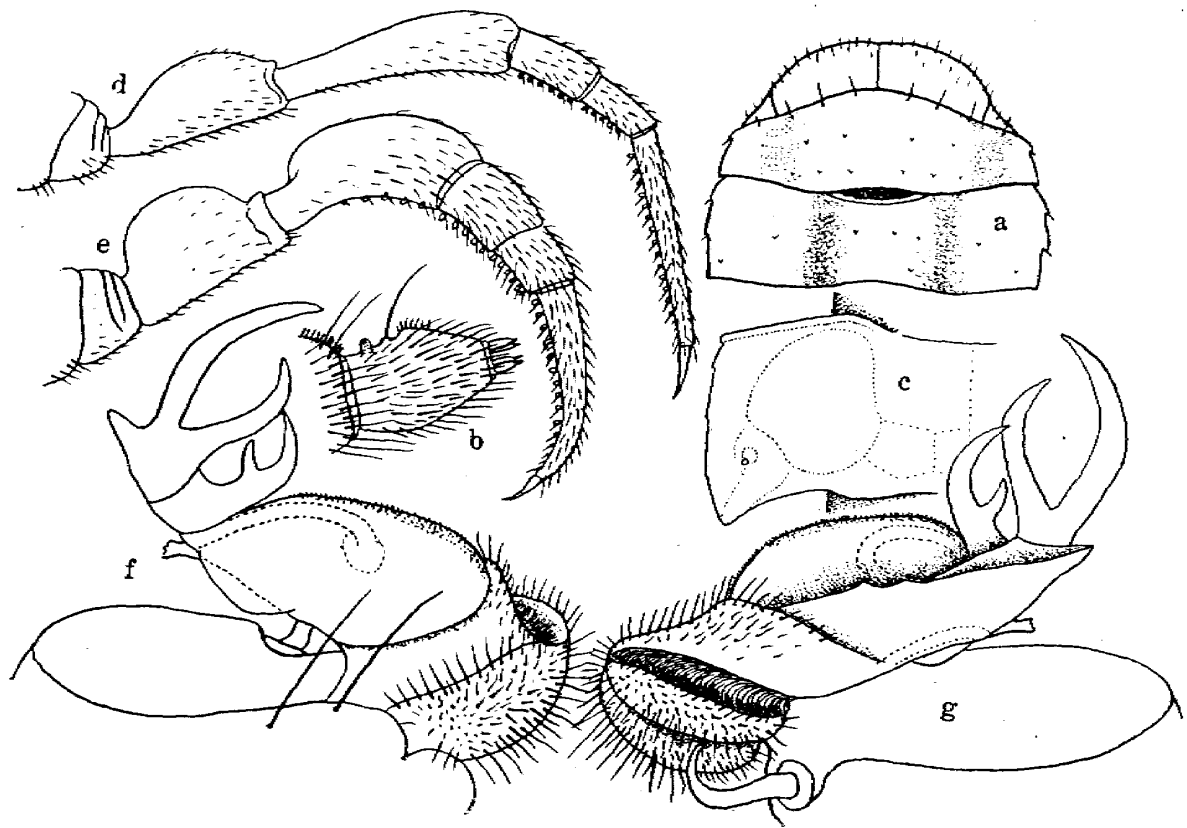
Abb. 2. *Epanerchodus yosiianus* sp. nov. ♂ a: Körpervorderende. b: Endglied der Antenne. c: 10. Seitenflügel. d: 12. Bein. e: 12. Bein von *Epanerchodus sancutus*. f, g: Gonopode von aussen und innen.

3. *Epanerchodus alcicornis* sp. nov. (ツノオビヤスデ) Abb. 3.

体白色。雄体長 12mm, 幅 1.3mm。雌体長 15mm, 幅 1.5mm。頭部大形。真洞窟性のヤスデで触角は洞窟型, 第 7, 第 6, 第 5 節の長さと幅との比はそれぞれ 13:9, 2:1, 3:1 である。尚第 6, 第 5 節の先端背面にある剛毛の間には短い特殊な感覚毛群生す。頸板は頭幅よりはるかに幅せまく半円形で後角は角ばつ
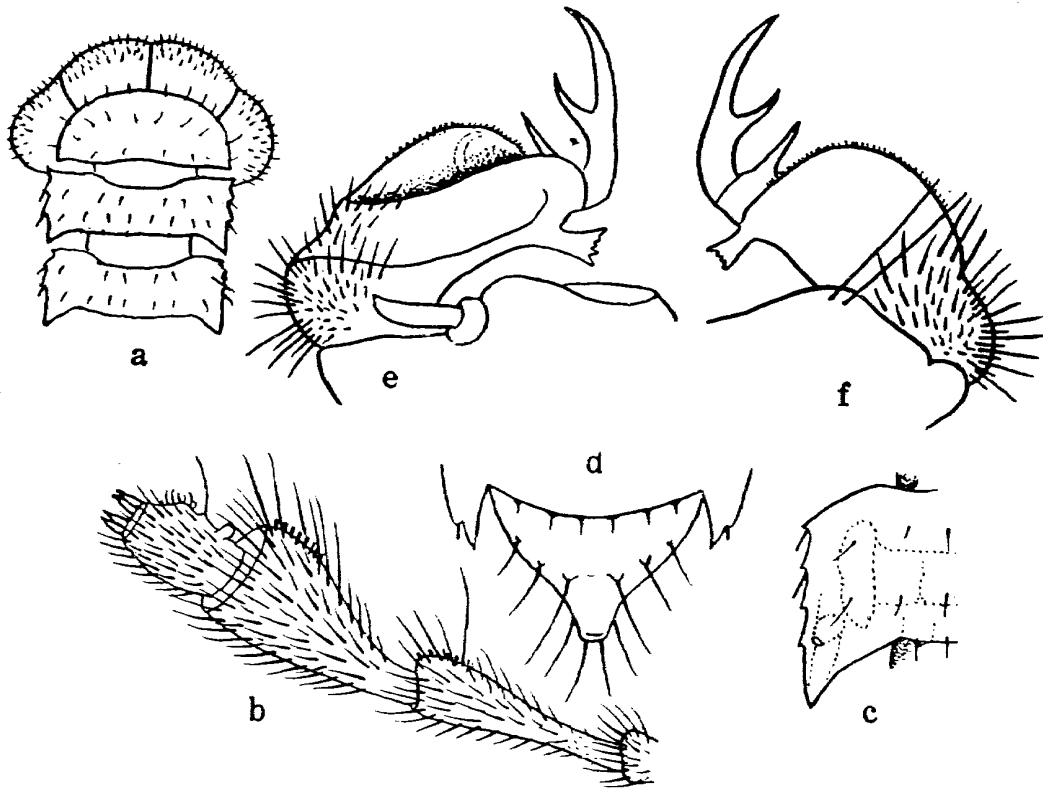
Abb. 3. *Epanerchodus alcicornis* sp. nov. ♂ a: Körpervorderende. b: Antenne. c: 10. Seitenflügel. d: Körperhinterende. e, f: Gonopode von innen und aussen.

ている。瘤隆起はなく 3 剛毛列あり。第 2 背板は頸板より少し幅広く瘤隆起は不明瞭である。尚側縁の鋸歯は大いに発達し Stäbchen あり。第 3, 第 4 背板は第 2 背板とほゞ同幅であるが第 5 背板より後方のものは少し広くなつている。各側莛は水平に突出し各々幅より長さが大である。各側莛においてその鋸歯は著しく発達し Stäbchen もある。臭孔は側縁より背側内方へ移動して開く。各背板の瘤隆起は著しくはないが明らかに認められ各々剛毛を具えている。側莛上の Längswulst は著しくはない。Hinterzipfel は第 2 側莛よりはじまり前角は角ばつている。殊に体前方の側莛では著しい。雄の体前方部の歩肢に Kugelborste は少く殆どない。胸板に十字溝ありやゝ長い剛毛密生している。

生殖肢の基節はやゝ大形, 角状突起は大形である。前腿節部は剛毛密生。Endomerit は鋭尖し, 外棘も著しく発達している。脛跗節は中央部に 1 枝を有し鹿角状である。学名はこの脛跗節の形状を示すものである。Clivus は半円形に突出している。同属の他種との区別点は, 側莛側縁の鋸歯よく発達し Stäbchen あ

〔附記〕 第 63 巻第 7 号中第 10 報文中の誤植

290 頁 第 1 行……尙体節部は尙腿節部の誤

〃 下から 12 行……Hotype は Holotype の誤

〃 下から 9 行……$\pm\frac{1}{12}$ は $1\frac{1}{12}$ の誤

り，背板の瘤隆起は著しくはない。第 2 背板より Hinterzipfel あり，第 19 Hinterzipfel は Telson の中央に達せず，Clivus 半円形で大。脛跗節が鹿角状，外棘大等の点にあり。Holotype は体長 12 mm の雄。産地は三重県志摩郡五知村クラタニの穴で吉井良三先生，今立及び柴内氏によつて 1953 年 6 月 25 日採集せられたものであることを記して深い感謝をさゝげる。

以上 3 新種の Holotype は筆者の手元に保存してある。

Résumé

Beiträge zur Kenntnis japanischer Myriopoden. 12. Aufsatz: Über 3 neue Arten von *Epanerchodus* (Polydesmidae)

Yasunori Miyosi

Matsuyama Kita Koto-Gakko

1. *Epanerchodus tubakisanus* sp. nov. Abb. 1.

Diese neue Art ist characterisiert folgendermassen: Männchen ca 11 mm lang, 1.4 mm breit. Weibchen etwas grösser. Farbe beide schmutzigbraun, doch Kopf, Bauche und Beine hell gelbrich. Antenne kurz, dick und Sinneskuppel merklick. 2. oder 3.-19. Tergiten zeigen etwas deutliche Skulpturen. 19. Hinterzipfel sehr klein. Gonopoden sind merklich wie sie sich in Abb. 1. zeigen. Fundort: Issi-mura, Ehime-ken. Holotype: Männchen, Länge 11 mm. Allotype: Weibchen 13 mm lang.

2. *Epanerchodus yosiianus* sp. nov. Abb. 2.

Körperlänge: Männchen ca 26 mm, Weibchen ca 30 mm. Breite: Männchen 3.8 mm, Weibchen 3.9 mm. Farbe beide schmutzigbraun. Skulptur undeutlich, aber vom 7. oder 8. Tergit an etwas deutlich. Seitenflügel sehr breit entwickelt. Gonopoden: Wie sie sich in Abb. 2. zeigen. Diese neue Art mit *Epanerchodus sancutus* Miyosi nahe verwandt, aber klar unterscheidet sie sich von diesem durch die folgenden Diagnosen: 1) Körper grösser und Seitenflügel breiter. 2) Endomerit bewaffnet sich mit dem kräftigen Aste am Vorderseite. 3) Der zahnförmige Fortsatz am vorderen Postfemurabschnitte ist sehr kräftig. 4) Kopf ein wenig beborstet. 5) Beine sind schlank. 6) 19. Hinterzipfel länger als *E. sancutus*, dessen Hinterzipfel sehr klein. Holotype: Männchen 26 mm lang. Fundort: Oeyama, Kyoto-Fu.

3. *Epanerchodus alcicornis* sp. nov. Abb. 3.

Diese neue Art ist charakterisiert folgendermassen: Männchen 12 mm lang, und Weibchen 15 mm lang. Farbe beide weisslich. Kopf gross. Collum schmal und fast halbkreisförmig. Seitenflügel schon vom 2. Ring an mit spitzen Hinterzipfeln. An der sehr merklich Einkerbung des Seitenrandes je mit einem Stäbchen. Felderung der Tergite mässig ausgeprägt und mit Borsten. 19. Hinterzipfel erreicht gar nicht die Mitte des Telsons. Die vorderen männlichen Beinpaaren mit einfachen Borsten und kaum mit Kugelborsten. Gonopoden: Clivus gut entwickelt und halbkreisförmig. Tibiotarsus ist hirschhornartig. Antenne ist cavernicole Form. Holotype: Männchen 12 mm lang. Fundort: Kuratanino-Ana, Mie-Ken.